平成２９年度第２回平塚市博物館協議会会議録

■開催日時　平成２９年１０月２７日（金）１０時～１１時３０分

■開催場所　平塚市博物館　特別研究室

■会議出席者（敬称略）

会　長　石綿進一

副会長　椿田有希子

委　員　澤井建二、平井　晃、安室　知

事務局　澤村館長、縣館長代理（管理担当長）、栗山館長代理（学芸担当長）

■傍聴者　１名

■会議の概要

１　開　会

館長挨拶

２　議　事

（１）　報告事項等について

・平成２９年度夏期特別展について

・夏期行事の開催状況について

（２）　今後の事業計画等について

（３）　その他

・　事務連絡等

※　閉会後秋期特別展の展示解説。

■議事および質疑

議題（１）報告事項等について

◆平成２９年度事業のうち夏期特別展「川原の石のメッセージ －ひろって学ぶ大地のなりたち－」について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委　員　一つは広報に関して。神奈川県の広報で「かながわサイエンスサマー」というのがある。これに掲載する効果が大きい。広報ひらつかだけでは充分なＰＲができない。大きな広報を利用するのは有効なこと。

ただ、集客だけでみると昨年とさほど変わっていないが、私がちょくちょく来てみたなかで

は結構集客できていたと思う。

今回の展示では石がたくさん展示されていて、石を持って「この石は何だ」と調べている人が見受けられた。

もう一つは、石の図鑑を作ろうという体験学習にスタッフとして参加した。参加者のお母さんから話を聞いたところ、夏休みの自由研究の材料を博物館に探しに来る方が多かった。お母さんはよくわからないが子どもが参加したいというので参加したという方が多かった。自由研究の視点からイベントのテーマを探すのも良いと感じた。

また、広報ひらつかの中にいろいろなイベントが紹介されているが、若いお母さん方はあまり広報を読んでいない。ただし、学校で配布されるプリントは必ず見ている、ということがある。子ども向けのイベントは学校に配布できるプリントを作ってはどうか。

これも石の図鑑作りだが、市内の参加者が少ない。平塚市の博物館なのだが、市内の集客が少なくなっている。

事務局　市内の参加者が少ないのは、最初に指摘があった「かながわサイエンスサマー」でＰＲしたものであり、この結果県下全域からの応募があったもの。それを厳正に抽選した結果市内の参加希望者が多く落選した。今後、市内の希望者を優先するなどの対応を検討したい。

一方で市内の広報を強化することも考える必要がある。指摘のあった学校への周知は、月刊の「あなたと博物館」を全校に、教員の人数分配布するとともに、昨年度この協議会で教えていただいた「校支援システム」へもＰＤＦでアップするなど、先生への周知は進めている。全生徒分の資料配布ということになると、量的にも多く学校の負担も多くなると考えられるため、学校との協議が必要。また、校長会や教頭会の機会があるので、学校の先生に対する周知を図るべく積極的に活用することを考えている。

委　員　先生の人数分配布しているということなので、生徒に対する先生の一言があればいいのかなと思う。

委　員　学校の先生とのつながりは年間でどのくらいあるのか。学校に来てほしいという依頼や、生徒のこういうことをさせたいが、というような相談は何件ぐらいか。

事務局　とくに学校の先生との打ち合わせの会というのは設けていないが、平塚市教育研究所が実施している地域資料活用のプロジェクトには講師として出向いたり一緒に活動したりして、先生方に博物館の使い方などを知ってもらうようにしている。今年度以降は「わたしたちの平塚」を改訂するプロジェクトが始まるので、その中で先生への周知を図るつもりである。

委　員　学校の生徒がプラネタリウム以外で、単独であるいはグループで博物館に調べに来るケース

はあるか。

事務局　２０１６年度のデータで小学校の団体は７６団体、４０００名余り。中学校は３１団体で１９７名なので、団体での見学はかなり多いと言える。

委　員　その大半はプラネタリウムか。

事務局　プラネタリウムは半分強ぐらい。

委　員　プラネタリウムは人気があり幼稚園の頃から来ている。普段から学校の先生とのコミュニケーションが増えると小学校に「あなたと博物館」を掲示してもらうとか、授業の中で、博物館で調べることを勧めるようなことになるのではないか。

委　員　集客もそうだが、限られた職員数の中では難しい面もあるかと思う。

私も生物の分野で夏休みにイベントを実施しているが、厚木ではチラシをちょっと配っただけでも応募がすごい。同じ広報のしかたでも場所によって全然違う。平塚だと博物館でいろいろなイベントを企画しなくてはいけない中で、市内に合ったものがあったり神奈川県全体に及ぶものがあったりして、その辺は工夫しているとは思う。

委　員　学校の方では先生が忙しいということがあると思う。

今回の広報（特別展関連の特集記事）のようなことがあると、博物館に来る方が増えるのではないかと思う。

委　員　広報や先生とのつながりは当然のこととして続けていただきたい。

石のことで伺いたい。生き物では我々の生活にどうつながっているかの話をするが、石の場合も生活とのつながりについての具体的な説明が必要と思う。

委　員　これまで、常設展はしっかりしていると思う。特別展は来た人が説明なしに理解できるというのが理想ではないかと思っている。イベントでは「岩石剥片を作ろう」は石の好きな人にとっては素晴らしい企画だが専門的すぎるかもしれない。夏は子どもにとってわかりやすく楽しいものを入れてはどうかと思う。専門的なものも必要だとは思うが、子どもにも簡単なものを博物館であつかってもいいのではないか。

委　員　１０月にジオツアーをやっているが、この特別展に合わせて第１回を実施したほうが関連企画として良かったのかなと思う。ただ、地学の展示は面白くないというのが定番と言われる中で、こういう企画はすごいなという印象を持った。やはり専門の学芸員がいて地道な研究をやっているからできる企画なのかなと思う。若干入館者数が減るというのは仕方がないとしても、果敢にこのテーマで特別展をやるというのは平塚だからできたのかなと思っている。

委　員　難しい用語や難しい概念を何が何でもかみ砕いて説明しなくてはならないとは思っていない

が、子ども向けにはフリガナをふってほしいと感じた。

今後とも、夏休み期間は小中学生を対象とした企画を開催していくのか。それが定着していけば集客に関しても苦労しなくていいようになるのではないか。

事務局　シンプルで楽しめる行事はどうかという意見で、これは博物館の行事ではないかも、というような懸念があったが、そのようには考えていない。どのような対象に対して資料を普及していくかということは考えていることであり、ありがたい御意見だった。

フリガナ等について、専門的な立場で展示を作っていくときにどういう目線を意識していくときに、我々自身もつかめていない部分がありアンケートの中から学んでいこうと考えている。今後の展示に生かしていきたい。

事務局　夏休み期間に当たる特別展について、特別展の企画は３年から５年先ぐらいまでの見通しを立てて準備しているが、夏休みは子ども達にアピールするチャンスであるという認識は持っている。来年度の夏は「火星大接近」というテーマで準備をしており、これは夏でよかったのだが、天文現象だと必ずしも夏とは限らない。また、それぞれの分野の準備状況やテーマによっては年度開始から時間の少ない夏の特別展が難しいものもある。ただ、できるだけ低年齢の皆さんにも楽しんでもらえるテーマを夏に持ってくるという意識はある。

事務局　毎年夏に子ども向けのイベントを提供できるかというと、正直自信はない。果たして企画が追いつくかどうか。夏休みという時期の条件を考えたときに、やはり子どもたちは出かけやすい状況なので、それに合わせた企画は心掛けたい。

自由研究というニーズも存在すると思うので、それを保護者にどう伝えるかということにも意を用いていきたい。

委　員　地域によって違うという話があったが、入館者数や子どもの割合にさほど大きな変化がないのは、平塚市博物館にとってキャパシティ的にこのぐらいが限度とみていいのか。言い方がおかしいが、この倍を集客するとどうなるのか。地域の特性としてこの辺が平塚の特性といえるのかどうか。

事務局　博物館事業の中でも事業の特質によって限界のあるものと余裕のあるものがある。展示については展示室に余裕がある限り来ていただくことができる。しかし、行事については一人の学芸員が１回に相手にすることができる人数と、実施する部屋の大きさがあるので、行事についてはほぼ満杯と思われる。行事の回数を増やせば増えるかというと、回数的にも部屋の利用がフル回転している状況で、学芸員のスケジュールもいっぱいなので、限界と認識している。

◆夏期行事の開催状況についてについて、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委　員　イブニング・ミュージアム・ウィークに参加したが、この時間帯にやるというのは大変なことだと思う。こんなにいろいろやっているのに、なぜ市民の方々が参加できないのか、参加しないのか。我々のような年寄りは時間的には何時でもよいのだが、この時間なら仕事をされている方でも参加できるのではないかと思う。皆、広報などいろいろなものを見ていないのかなあと思い、残念だった。素晴らしい話であったし、この時間にやっているということを何かの機会に言えないのかなと思った。

委　員　私は博物館に来るようになって４年になるが、仕事をしているときはとにかく博物館に来ることはできなかった。若いお母さんたちも忙しくてやはり行けない。平塚は、知識レベルは高いと思うが、応募を見ると市外が多い。同じ広報をしても地域性があるというところを真剣に考えてもらうと、別のものが出てくるかなと思う。

委　員　イブニング・ミュージアム・ウィークはいつごろから始まったものか。

事務局　１０年以上はやっています。

委　員　テーマが変わっても来られる方が一緒かなと感じている。

事務局　イブニング・ミュージアム・ウィークは仕事の帰りの時間帯に博物館に寄っていただきたいということで始めた事業。しかし、講義という形式だとスタートの時点に間に合う必要があるという欠点がある。それと、仕事の後で寄ってみたいという方の関心に、テーマがあっているかどうかという点も検討する必要があるかと思う。

同じタイプの行事を同じように公募しても、地域によって応募がだいぶん違うというのは、地域によって普段から関心を持っていうところが違うのだろうと。その点を我々も調べていかなければならないだろうと、今日の話から学んだ。

議題（２）今後の事業計画等について

◆今後の事業計画等について、事務局栗山学芸担当長が説明資料により説明。

委　員　寄贈品コーナーの展示について、私が学芸員の頃、民俗資料の寄贈がかなりあったが今回はないということか。

事務局　新たに寄贈いただいた資料は毎年４月と５月に展示している。下半期はテーマで企画している。コーナー名が「寄贈品コーナー」なので、わかりにくいかもしれない。

議題（３）その他

◆駐車場の有料化について事務局縣管理担当長が説明。

委　員　　今日は博物館前の駐車場がいっぱいだったので図書館の前に駐車したが。

事務局　　すべて同じ条件になる。

委　員　　こういう会議でも有料になるのか。

事務局　　博物館協議会は市で開催する会議なので、委員は減免の対象となるように調整している。

◆次回日程を調整し閉会した。

以　上